

補助事業等実績報告書

平成 26 年 4 月 21 日

岡山市長 大森雅夫 様

補助事業者

住所又は所在地 岡山市北区久米348

氏名又は団体名 特定非営利活動法人岡山市子どもセンター
及び代表者氏名 代表理事 美咲 美佐子



岡山市補助金等交付規則第16条第1項の規定により、次のとおり報告します。

指令年月日	平成 25 年 12 月 2 日	指令番号	岡山市指令安第1136号
補助年度	平成 25 年度	補助金等の名称	岡山市市民協働推進事業補助金
補助事業等の名称	岡山市市民協働推進モデル事業「自立する子どもを育むための体験活動調査」		
補助事業等の施行場所	岡山市内		
着手年月日	平成 25 年 12 月 1 日	完了年月日	平成 26 年 3 月 31 日
補助金等の交付決定通知額	928,000 円		
補助金等の既交付額	696,000 円		
補助事業等の経費精算額	1,162,820 円		
補助事業等の経過及び内容	岡山市内の子どもの生きる力を育むために、子どもたちの地域における体験活動の実態を把握し、効果的で質の高い体験活動の提供方法について探り、より効果的な施策検討に役立てることを目的に、自立する子どもを育むために必要不可欠な地域の体験活動の実態を明らかにするための調査を実施した。(調査対象:岡山市内の小学1~3年生のいる世帯1000世帯・体験活動を提供する団体752団体)その後調査結果の報告会は、3月30日のキッズフェスティバル会場で開催する予定であったが、雨天のため開催できなかった。		
添付書類 1 収支決算書 2 事業報告書 3 その他	※ 報告事項審査結果(担当課) 通告と認めらる (印)		

注 ※印の欄は記入しないこと。

<p>事業実施内容</p>	<p>岡山市内の子どもたちの生きる力を育むために、子どもたちの地域における体験活動の実態を把握し、効果的で質の高い体験活動の提供方法について探り、より効果的な施策検討に役立てることを目的に、自立する子どもを育むために必要不可欠な地域の体験活動の実態を明らかにするための調査を実施した。</p> <p>1 調査(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調査1の対象者：岡山市内の小学1～3年生の児童の保護者(1000世帯) ●調査の手法：アンケート調査、岡山市住民台帳より無作為抽出(回収率26.2%) ●調査の内容：地域で提供される体験活動への参加実態と参加充足感、その要因の調査を行った。 ●調査結果及び考察 <ul style="list-style-type: none"> ・「自然体験活動」「生活体験活動」「文化体験活動」すべての分野において、「体験活動が不足していると感じている傾向が見られた。 ・体験活動への参加を持続的に促進するためには、体験活動に参加しやすい物理的な環境整備(場所までの距離、費用、親子での参加可等)をすると同時に、子ども自身が「良かった」と感じられる質の高い体験活動を提供することが必要不可欠である。 ・保護者が、仕事と家事を両立させる多忙な日々であっても体験活動に関する情報を得やすい環境を整えることが、参加促進の一助になる。 ・子どもが豊かな体験をするためには、体験活動の魅力や意義を可視化し、保護者にわかりやすく伝えていくことが必要である。 ・保護者の実感として、体験活動は、子どもの成長に対して概ね効果的と言える。 <p>2 調査(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●調査2の対象者：市内で子どもの体験活動を提供している民間非営利団体、公共施設等(752団体) ●調査の手法：アンケート調査、各種データベースから岡山市内の団体を抽出(回収率19.1%) ●調査の内容：体験活動提供団体の現状と課題を調べるための調査を行った。 ●調査結果及び考察 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ体験及び、伝統行事、清掃活動、資源回収への参加については、大きく減少している。 ・キャンプ、読み聞かせ、工作、科学実験等は参加者が増加している。 ・参加者増の理由としては、子どもの興味・関心があること、親子で参加できること、費用が安いこと等が考えられている。これらは、保護者が体験活動を選ぶ際の理由と概ね一致している。 ・参加者が減少している理由としては、保護者が忙しいこと、子どもを連れていく時間がないこと、保護者の役割負担が大きい事があると考えられている。減少理由についても、保護者が参加を迷う理由と概ね一致している。 ・体験活動プログラムを提供する上で団体側における課題としては、負担を嫌がる保護者の増加が最も大きな課題として表れている。加えてスタッフの育成など担い手の課題やプログラムのマンネリ化、広告効果の課題、運営経費面での課題等が確認できる。 ・改善したい点としては、「情報発信方法」「ボランティア募集・育成」が挙がっている。 ・事業する上で改善したい点及び必要とする支援としては、「セミナー・研修」「マニュアル提供」を支援として求めている傾向が確認できる。 ・体験活動の機会の拡充と質の向上のために必要なこととして、保護者への普及啓発を挙げる団体が多くみられた。次いで遊び場の整備、補助金制度が必要と考える団体が多く見られた。 <p>調査結果の報告会は、3月30日のキッズフェスティバル会場で開催する予定であったが、雨天のため開催できなかった。</p>
<p>課題</p>	<p>体験活動の機会の拡充と質の向上を図るためには、子ども達自身がそれらを魅力的と感じ、また担い手となる保護者や地域住民をはじめとする市民が、体験活動の意義について具体的に理解することが求められる。体験活動の意義を広く普及啓発し、子ども達の豊かな成長に繋がる体験活動の場を提供するためには、体験活動が子ども達のいかなる成長に関与しているのかを明らかにし、可視化させることが今後の課題である。また、市民・NPO・行政それぞれのセクター同士がネットワークを作り、それぞれ抱える課題や悩みを解決し、体験活動の機会の拡充を図るためにも、円卓会議を開き、お互いが現状を把握し、各々の役割に基づいて知識・技術・資源の交換をしながら協働していくことが重要である。</p>

■ 収支決算書

区 分		予算額	内 訳
収 入 の 部	自己資金	234,820	✓
	補助金	928,000	✓
	計	1,162,820	✓
支 出 の 部	人件費	759,000	統括責任者 @850円×8H×30日×1人=204,000円 ✓ 専門スタッフ @7500円×40日×1人=300,000円 ✓ アンケート関係作業アルバイト @850円×8H×19日=129,200円 ✓ @850円×8H×2日=13,600円 ✓ @850円×8H×10日=68,000円 ✓ @850円×8H×6日=40,800円 ✓ @850円×4H×1日=3,400円 ✓
	報償費	120,000	外部講師60,000×2人
	旅費（交通費）	0	
	消耗品費	38,835	事務用品、封筒、印刷インク等
	印刷製本費	0	
	通信運搬費	241,385	郵便代、宅配便等
	使用料	3,600	会議室使用料
	計	1,162,820	